

麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である関西医科大学附属病院、専門研修連携施設である関西医科大学総合医療センター、関西医科大学香里病院、馬場記念病院、大阪府済生会野江病院、大阪府済生会茨木病院、大阪府済生会泉尾病院、国立循環器病研究センター、大阪労災病院、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構大阪医療センター、大阪警察病院、関西労災病院、倉敷中央病院、石切生喜病院、大阪府立病院機構大阪母子医療センター、大和高田市立病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**、**関西医科大学麻酔科研修マニュアル①②**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は、専門研修基幹施設または関西医科大学総合医療センターで研修を行う。
- 専門研修連携施設（関西医科大学香里病院，馬場記念病院，大阪府済生会野江病院，大阪府済生会茨木病院，大阪府済生会泉尾病院，国立循環器病研究センター，大阪労災病院，大阪大学医学部附属病院，国立病院機構大阪医療センター，大阪警察病院，関西労災病院，倉敷中央病院，石切生喜病院，大阪府立病院機構大阪母子医療センター，大和高田市立病院）のいずれかにおいて，最低6ヶ月は研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），ペインクリニック，緩和ケアを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 本院では各種手術の麻酔管理，集中治療の研修を十分行うことができるが，ペインクリニック，緩和ケアについては関西医科大学総合医療センター，大阪大学医学部附属病院が症例が多く，集中治療研修では倉敷中央病院での研修も可能である。小児麻酔や小児集中治療については大阪府立病院機構大阪母子医療センターでの研修が，またさらに各種心臓血管麻酔については国立循環器病研究センターや大阪大学医学部附属病院での研修も可能である。
- 地域医療の維持のため，大和高田市立病院，馬場記念病院，石切生喜病院，大阪府済生会野江病院，大阪府済生会茨木病院，大阪府済生会泉尾病院，大阪労災病院，関西労災病院，倉敷中央病院での研修プログラムを含んでいる。

【研修実施計画例】

	A（標準）	B（小児）	C（ペイン，緩和ケア）	D（集中治療）
初年度 前期	本院	本院，連携施設	本院	本院
初年度 後期	本院	本院，連携施設	本院	本院
2年度 前期	連携施設	本院	総合医療センター （ペイン）	本院

2年度 後期	連携施設	本院	総合医療センター (ペイン)	連携施設
3年度 前期	本院	本院, 連携施設	本院	本院 (集中治療)
3年度 後期	本院	本院, 連携施設	本院	本院 (集中治療)
4年度 前期	国立循環器病 研究センター	大阪府立病院機構 大阪母子医療セン ター	大阪大学医学部附 属病院	倉敷中央病院
4年度 後期	国立循環器病 研究センター	大阪府立病院機構 大阪母子医療セン ター	大阪労災病院	倉敷中央病院

【週間予定表】

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	第1, 3, 5土	日
午前	勉強会 抄読会 手術室	術前外来	手術室	休み	外勤	カンファレンス 手術室 勉強会	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	外勤		休み
当直			当直				

- 午前の麻酔開始前に症例検討会を行う。
- 勤務土曜日には特定症例検討会を行う。
- 当直翌日は休日とする。
- 日曜、祝日に日当直を行った場合も翌日は休日とする。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

関西医科大学附属病院 (関西医科大学本院)

研修プログラム統括責任者：上林卓彦

専門研修指導医：上林卓彦 (麻酔)

萩平哲 (麻酔, 呼吸器外科麻酔)

大井由美子 (麻酔, 小児麻酔)

中嶋康文（麻酔，心臓血管麻酔）
中本達夫（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔，神経ブロック）
中畑克俊（麻酔，産科麻酔）
梅垣岳志（麻酔，集中治療）
伊藤明日香（麻酔）
上村幸子（麻酔）
岩崎光生（麻酔）
吉田敬之（麻酔，区域麻酔，神経ブロック）
奥佳菜子（麻酔）
専門医：竹田みちる（麻酔）
堀田亜希子（麻酔）
金沢路子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1234

特徴：麻酔の各種分野（呼吸器外科麻酔，小児麻酔，心臓血管麻酔，ペインクリニック，産科麻酔）のエキスパートが揃っており，多数・多彩な疾患・手術患者に対する科学的全身管理が研修可能である。

また，総合集中治療部では麻酔科を中心に **closed system** で集中治療診療を行っており，内科系・外科系を問わず重症患者の全身管理が研修できます。

② 専門研修連携施設A

関西医科大学総合医療センター

研修実施責任者：増澤宗洋（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

専門研修指導医：増澤宗洋（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

阪本幸世（麻酔）

久保古寿江（麻酔）

内山祐佳（麻酔，ペインクリニック）

角 千里（麻酔）

専門医：北野正悟（麻酔，ペインクリニック）

松井博義（麻酔）

宇野梨恵子（麻酔）

認定病院番号：30

特徴：関西医科大学総合医療センターにおける教育の根本は麻酔科の総合医を作ることである。心臓超音波診断や末梢神経ブロックは全国でも有数な技術を持った麻酔科医が

在籍している。脳死臓器移植もこれまで7例行った。ペインクリニックや緩和医療も行っており、集中治療を加えた3本柱がすべてそろった施設である。

関西医科大学香里病院

研修実施責任者：松本早苗

専門研修指導医：松本早苗（麻酔）

山崎悦子（麻酔）

串田温子（麻酔）

認定病院番号：1490

特徴：耳鼻科や整形外科の比較的リスクの低い小児症例が多く、一般的な小児麻酔が経験できる。

馬場記念病院

研修実施責任者：池田栄浩

専門研修指導医：池田栄浩（麻酔）

山田麻起子（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号：1023

特徴：麻酔全般，特に脳神経外科手術の麻酔

脳卒中コールをもち、南大阪方面の脳外科救急患者に対応し、脳動脈瘤クリッピングの手術、血管内治療など脳外科領域に特化した病院である。また、交通外傷、高齢者の転倒による大腿骨骨折など整形領域の骨折手術も多い。

大阪府済生会野江病院

研修実施責任者：加藤武志

専門研修指導医：加藤武志（麻酔全般）

今西敏博（麻酔全般）

仲西未佳（心臓麻酔，ペイン）

認定病院番号：732

特徴：地域医療支援病院。

中規模病院であるが、心臓血管外科，呼吸器外科，脳神経外科，産科と多岐にわたる症例が経験できる。

大阪府済生会茨木病院

研修実施責任者：中村久美子

専門研修指導医：中村久美子（麻酔）

白川倫代（麻酔）

林裕美子（麻酔）

認定病院番号：1312

特徴：麻酔全般

高齢者手術と帝王切開症例が多い。

大阪府済生会泉尾病院

研修実施責任者：上野脩

専門研修指導医：上野脩（麻酔）

認定病院番号：1552

特徴：麻酔全般

恩賜財団『救療済生』の精神

国立循環器病研究センター

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓麻酔）

吉谷健司（心臓麻酔，脳外科麻酔）

金澤裕子（心臓麻酔）

南 公人（集中治療）

前田琢磨（輸血管理）

専門医：濱口英佑（心臓麻酔）

前川真基（心臓麻酔）

月永晶人（心臓麻酔）

下川 亮（心臓麻酔）

矢作武蔵（心臓麻酔）

濱井康貴（心臓麻酔）
宮崎絵里佳（心臓麻酔）
佐藤仁信（心臓麻酔）
長谷川知子（心臓麻酔）

認定病院番号：168

特徴：心臓大血管手術の症例数が多いことが特徴です。2018年は1208症例の心臓大血管手術症例がありました。弁手術はダビンチロボット手術による僧帽弁形成術、小切開大動脈弁置換術、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術など低侵襲手術が増加しています。反対に重症心不全に対する左室補助装置装着術や心臓移植術、大動脈解離に対する緊急弓部グラフト置換術などリスクの高い症例も多くあります。カテーテル治療としてハイブリッド手術室でカテーテル大動脈弁置換術や僧帽弁形成術、大動脈ステント留置術が多く施行されています。脳血管外科手術症例、産科症例も多く施行されています。小児心臓手術や新生児姑息術も多く施行されています。

独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院

研修実施責任者：水谷 光

専門研修指導医：水谷 光（麻酔，手術室運営）

宮田嘉久（麻酔）

藤井 崇（麻酔，心臓血管麻酔）

松浦康司（麻酔，集中治療）

山下 淳（麻酔，心臓血管麻酔）

横川直美（麻酔，ペインクリニック）

山本陽子（麻酔，ペインクリニック）

旭爪章統（麻酔，ペインクリニック）

専門医：山田有季（麻酔）

松尾 顯（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：197

特徴：高度で豊富な手術症例とペインクリニック症例

大阪大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：藤野裕士

専門研修指導医：藤野裕士（麻酔，集中治療）

高階雅紀（麻酔）
内山昭則（集中治療）
柴田 晶カール（麻酔，集中治療）
松田陽一（麻酔，ペインクリニック）
高橋重矢子（麻酔，ペインクリニック）
井口直也（麻酔，集中治療）
井浦 晃（麻酔）
入嵩西 毅（麻酔）
久利通興（麻酔）
植松弘進（麻酔，ペインクリニック）
前田晃彦（麻酔）
山本俊介（麻酔）
播磨 恵（麻酔，集中治療）
大瀧千代（産科麻酔）
平松大典（集中治療）
坂口了太（集中治療）
小澤満喜子（麻酔）
松田千栄（麻酔）
専門医：堀口 祐（集中治療）
田中愛子（集中治療）
古出 萌（集中治療）
橋本明佳（集中治療）
清水 優（麻酔）

麻酔科認定病院番号：49

特徴：

- ・あらゆる診療科があり，基本的な手術から複雑な手術，ASA1～5の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
- ・2年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。
- ・集中治療の研修を行うこともできる。

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター

研修実施責任者：渋谷博美

専門研修指導医：渋谷博美（臨床麻酔）

天野栄三（臨床麻酔）

西村暢征（臨床麻酔）
石井裕子（臨床麻酔）
伊藤千明（臨床麻酔）
上田祥弘（臨床麻酔）
春原真理（臨床麻酔）
中西裕貴子（臨床麻酔）

専門医：山路寛人（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号：584

特徴：当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町4丁目」駅上にあります。29の診療科があり、合併症をもつ多くの手術が毎日施行されています。小児は、耳鼻科手術のほか、骨形成不全などの整形外科手術で多く、また成人の弁疾患や冠動脈疾患を中心とした心臓麻酔、食道・肺などの悪性疾患を中心とした胸部外科麻酔、脳外科の血管内手術や覚醒下手術の麻酔が経験できます。育児支援としては、敷地内保育園だけでなく、病児保育や夜間保育もあり、ママ麻酔科医が働ける環境も整っています。

大阪警察病院

研修実施責任者：北 貴志

専門研修指導医：北 貴志（麻酔全般、周産期麻酔、集中治療、ハイリスク麻酔、緩和医療）

谷口 洋（臨床麻酔）

清水智明（麻酔全般、小児麻酔、周産期麻酔、心臓血管麻酔）

荒井章臣（麻酔全般）

井上潤一（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

猪原智恵（臨床麻酔）

西村暢征（麻酔全般）

専門医：上田篤史（臨床麻酔）

竹田峰子（麻酔全般）

河合恵子（麻酔全般）

松村美穂（麻酔全般、ペインクリニック）

寺西理恵（臨床麻酔）

清水千穂（麻酔全般、心臓麻酔）

池田真悠実（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号：295

特徴：症例数の多い急性期病院であり小児を除くほとんどの科の症例が研修できる。

ペインクリニック学会指定研修施設，心臓血管麻酔専門医認定施設を取得。
専門性を持った研修が可能である。

関西労災病院

研修実施責任者：興津賢太

専門研修指導医：上山博史(麻酔)

興津賢太(麻酔)

田村岳士(麻酔)

専門医：福原 彩(集中治療部)

清中さわみ(麻酔)

阪下直美(麻酔)

中野一菜(麻酔)

麻酔科認定病院番号：327

特徴：県内で中心的な役割を果たす手術施設。

集中治療の研修も可能。

倉敷中央病院

研修実施責任者：山下茂樹

専門研修指導医：山下茂樹(麻酔，集中治療)

米井昭智(麻酔，医療安全)

木村素子(麻酔，心臓血管麻酔)

新庄泰孝(麻酔)

豊田浩作(麻酔，心臓血管麻酔)

大竹孝尚(麻酔，集中治療，ペインクリニック)

入江洋正(麻酔，集中治療)

大竹由香(麻酔，ペインクリニック)

専門医：勝田哲史(麻酔，集中治療)

遠藤民子(麻酔)

木村明生(麻酔)

楠 淑(麻酔)

皆川陽子(麻酔)

認定病院番号：113

特徴：倉敷中央病院は1166床を有する大規模総合病院である。2019年4月時点で麻酔科医31名が所属する。2018年度の麻酔科管理症例数は6399件（全手術件数は12627件/年）であった。手術室29室（アイセンター、ハイブリッド手術室を含む）を有し、小児先天性心疾患手術，臓器移植手術以外の豊富な手術実績を有する。病院も高度先進医療を志向しており，2019年5月に予防医療プラザも完成した。このような医療環境下，常に新しい知識と技術を習得することが可能である。

③ 専門研修連携施設B

石切生喜病院

研修実施責任者：河嶋 朗

専門研修指導医：河嶋 朗（麻酔，ペインクリニック）

専門医：田中素成（麻酔）

認定病院番号：1245

特徴：地域完結型医療が目標である。

大阪府立病院機構大阪母子医療センター

研修実施責任者：橘 一也

専門研修指導医：橘 一也（小児麻酔，産科麻酔）

野々村智子（小児麻酔，産科麻酔）

竹下 淳（小児麻酔，産科麻酔）

竹内宗之（小児集中治療）

専門医：山下智範

松浦秀記

黒田瑞江

川村 篤

麻酔科認定病院番号：260

特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし，専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として，胆道閉鎖症，胃食道逆流症，横隔膜ヘルニア，消化管閉鎖症，固形腫瘍（小児外科），先天性水頭症，もやもや病，狭頭症，脳腫瘍，脊髄髄膜瘤（脳神経外科），複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科），口唇口蓋裂（口腔外科），小耳症，母斑，多合指(趾)症（形成外科），分娩麻痺，骨欠損，多合指(趾)症，膀胱尿管逆流症，尿道下裂，総排泄腔遺残症（泌尿器科），斜視，未熟児網膜

症（眼科）、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科）、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科）、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管ファイバーや血管造影、MRIなどの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

大和高田市立病院

研修実施責任者：住吉直秀

専門研修指導医：住吉直秀（麻酔管理全般）

認定病院番号：905

特徴：ペインクリニック認定病院

地域における総合医療の中心施設

5. 募集定員

10名（希望定員数）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、関西医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

関西医科大学 麻酔科学講座 秘書 水野久美子

大阪府枚方市新町2-5-1

TEL：072-804-0101（内線2683）

E-mail：mizunoku@hirakata.kmu.ac.jp

Website：<http://www7.kmu.ac.jp/anesthw/residency>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。
- また、麻酔科のみならず、外科医を始め多職種の医療従事者からの聞き取りを行い、年次ごとに形成的評価を行う。この形成的評価の結果は指導記録フォーマット

ト（資料7）を用いて記録として各研修プログラムで共有する。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラム管理委員会

研修プログラム統括責任者と各施設の研修実施責任者により研修プログラム管理委員会を設置する。研修プログラム管理委員会は年間を通じて定期的開催され、所属する各専攻医の研修の進捗状況や評価を行い、各施設における研修の質が担保できるような専攻医の配置、研修カリキュラムの質などを検討する。

② 専門研修指導医の研修計画

研修プログラム統括責任者と研修実施責任者は、別途資料麻酔科専攻医指導者研修マニュアルに基づき定期的に講習会等を実施し、専門研修指導医の指導を行う。

③ 専攻医の労務管理

各研修施設において、研修プログラム統括責任者および研修実施責任者は、施設の管理者に対して専攻医が心身ともに健康に研修生活を送れるような適切な労働環境を整えるように協議する。基本給与ならびに当直業務、夜間診療業務などに対する手当てが適切に支払われるように管理者と合意する。また、必要がある場合は、適切な環境下で研

修が行われているか専攻医に対して聞き取りを行い、労働環境、労働安全の整備に努める。

15. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての関西医科大学総合医療センター、関西医科大学香里病院、大和高田市立病院、馬場記念病院、石切生喜病院、大阪府済生会野江病院、大阪府済生会茨木病院、大阪府済生会泉尾病院、大阪労災病院、関西労災病院、倉敷中央病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

専門研修指導医の少ない地域で専門研修の質を担保するために、専門性の高い症例などは専門研修指導医の豊富な遠隔施設に一定期間専攻医を研修派遣するなど、いかなる地域においても一定水準以上の研修が行われるよう研修プログラムを構成する。

また、専門研修基幹施設は医療資源の豊富でない地域の連携施設においても研修の質が確保できるような指導体制を組めるように連携施設を支援することも望まれており、必要な場合は、中核病院の専門研修指導医が、連携施設を訪問して、指導を実施するなどの措置も考慮に入れる。